

国語シラバス 中学2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語 I	3 単位	第 2 学年	・『国語 2』(光村図書) ・『標準漢字演習(5～2 級)』(東京法令出版) ・『ワーク 国語 中 2』(Educational Network) ・『SCHOOL RENSEI 現代文 理解片』(育伸社)『中学書写一～三年』(光村 図書) ・『ウイニング国語 I』 ※スタディサプリの通年講座から「中 2 国語(光村図書 国語)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	①総合的な国語力を身につけさせる。→様々な文章を通して読解・鑑賞の方法を習得し、ものの見方や考えを深める。「より多く、より質の高い読書をする」ことを指導する。②思考力・表現力を身につけさせる。→自分の意見を論理的に書いたり、発表したりすることができるようにする。①で読んだ本で、感動したこと・考えたことなどを自分の言葉でまとめて発表する場を作る。③基礎的な知識をしっかりと身につけさせる。→辞書を積極的に使用することを指示すると同時に、漢字小テストを随時実施して語句知識を豊かにし、表現力の向上を図る。		
評価の観点	基本的な漢字を身につけ、学習した作品・文章から語彙を広げ、語感を磨くことで確かな国語の力を獲得する。《知識・技能》 何を、何のために、どう学ぶかを把握し、「捉える」「読み深める」「考えを持つ」という課題に取り組む。個の活動と集団での活動を行き来しながら、多様性の中で自分の考えを確立する。《思考力・判断力・表現力》 自ら整理したり考えたり発信したりすることで、身につけた国語力をさらに強化し、生きる力に転化していく。《主体性・多様性・共同性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間 5 回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の 3 観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
 D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
1 学 期 中 間 考 査 ま で	①小説「アイスプラネット」椎名誠 ②報告「クマゼミ増加の原因を探る」沼田英治 ③思考のレッスン「具体と抽象」	①登場人物同士の言動や心情を表す表現などに注意して、作品を読み取る。家庭という背景によって省略されたコミュニケーションからより多くの思考・感情をくみ取れるよう読解力を高める。 ②作品に表れているものの見方や考えを捉え、主題について考える。 ③論理的思考力と科学的な素養の基礎を身につけさせる。	使用教材「国語2」
1 学 期 期 末 考 査 ま で	①メディアの特徴を生かして情報を集めよう ②情報を整理して伝えよう ③随筆「字のない葉書」向田邦子	①②身の回りにあるメディアについて、速報性・詳細さ・信頼性という観点で比較し、その特長を理解して、目的や状況に応じたメディアの選び方について考える。各メディアのメリット、デメリットを正しく理解し、状況に応じて適切に使い分ける力を身に付ける。 ③登場人物の言動の意味を考え、人柄や心情を捉える。父親に対する「私」の思いを捉え、自分の考えを持つ。	使用教材「国語2」

2 学 期 中 間 考 査 ま で	①小説「盆土産」 三浦哲郎 ②随筆「言葉の力」 大岡信 ③短歌「短歌に親しむ」 栗木京子 ④読書「読書を楽しむ」	①構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。作品に描かれている優しさや温かさを、表現に即して読み味わう。 ②筆者の考え方について理解を深めたうえで自分の考えを持ち、これからの「言葉」との向き合い方を見つける。 ③近現代の短歌について理解し慣れ親しむ。情景などを表す多様な語句に着目し、語感を磨く。読書を通して、時代や国境を超えて多くの人物や物事と出会い、様々な立場や考え方を知り、自分の考えを広げたり深めたりする。 ④夏期休暇中に読んだ本の紹介文を発表し評価し合い、知的好奇心をかき立てる読書を楽しむ。	使用教材「国語 2」
2 学 期 期 末 考 査 ま で	①論説「モアイは語る」安田喜憲 ②討論「立場を尊重して話し合おう」ディベート ③評論「君は最後の晩餐を知っているか」布施英利 「最後の晩餐の新しさ」藤原えみり	①文章の構成を押さえた上で、筆者の意見は何か、それはどのような根拠に基づいているかを正確に捉える。 ②構成や論理の展開の妥当性を吟味し、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ③立場を明確にして、適切な根拠とともに意見を述べる。お互いの立場や考えを尊重しながら話し合う。 ④異なる立場の人と話し合う時には、お互いの考えの共通点と相違点を整理しながら、論点を踏まえて話したり聞いたりする必要があることを知る。 ⑤観点を明確にして 2 つの文章を比較し、自分なりの考えを持つ。文章における具体と抽象の関係を理解する。	使用教材「国語 2」

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①小説「走れメロス」太宰治 ②書く「描写を工夫して書こう」	①様々な表現に触れ、人間の多様な営みへの理解を深める。描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を味わう。 ②登場人物の行動や考えについて、自分の考えを持つ。 ③「ある日の自分」を見つめて、私たちの生活そのものが物語になることに気付くと同時に、自分の心情や考え方の変化を認識する。 ④物語るのに効果的な順序や、読者に共感しながら読んでもらえる構成を工夫する。	使用教材「国語 2」
---	--------------------------------------	---	------------

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

【成績評価の概要について】
(1) 学期における評価の対象 ① 中間考査：100 点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100 点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 授業内小テスト、提出物、練習問題に取り組む姿勢、授業に取り組む姿勢などの平常点：60 点（関心・意欲・態度などの評価） (2) 学期評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は 40 点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計 400 点に対し、平常点合計は 100 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は 40 点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計 1000 点に対し、平常点合計は 250 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。